

令和5年度第2回東青地区教科用図書採択協議会議事録

【令和6年度使用小学校用教科用図書】

令和6年度使用小学校用教科用図書13種について、研究調査した結果を報告する。

○国語

2番「東書」について

- ・ 学習のめあてを持ち、意欲的に学ぶことができるよう、単元の最初と最後に学習全体の流れを把握できるページを配置している。学習指導要領には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることが示されている。本教科書では、例えば、6年生の「さなぎたちの教室」の教材において、単元の最初に学習のめあてや流れが分かる見開きのページと単元の最後に学習の手順と振り返りの具体的な内容をまとめたページが掲載されている。全学年において、学習のめあてを持ち、意欲的に学ぶためのページを掲載することで、主体的・対話的で深い学びの実現が図られるようにしている。

17番「教出」について

- ・ 郷土の自然の事物に興味・関心を持てるよう、5学年で白神山地を題材にした教材を掲載している。学習指導要領では、「考えの形成」、つまり、自分の考えを持ちながら学習することが重視されている。そこで、郷土の世界遺産である白神山地の課題を解決するために自分に何ができるのか、という、課題に対する解決策を考え、意見や考えを交流することで、お互いの考えには違いがあることに気づき、そのよさについて触れるという学習が期待できる。
- ・ 今日的な課題に関連した学習に取り組めるよう、4学年から、福祉や情報・防災教育に関わる教材を配置している。4年生から6年生の各学年で、発達の段階に応じて設定されたテーマに基づいて、話し合いが行われるよう工夫している。このことにより、学習指導要領で示されている、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成が期待できる。

38番「光村」について

- ・ 課題意識を高められるよう、単元全体を通して考える問いを設定し、解決のための手立てを示している。単元全体を通して考える「問い」を示すことで、単元を通して、課題意識を持って学習に臨むことができる。更に、解決のための手立てや振り返りの視点も示すことで、自分の経験や立場と重ね合わせながら自分の考えを形成し、友達と共有し、お互いの考えの違いやよさに気付く、という学習を進めていくことができる。
- ・ 見通しを持って学習を進められるよう、3学年以上から、段階的に説明的な文章を学習できる教材を配置している。まずは、見開き1ページの説明的な文章の練習を行い、説明的な文章の段落構成や、筆者の問いにあたる段落や結論にあたる段落は、どの段落か、といった説明的な文章の基本的な構造について学習する。その学習の後に、主となる教材を学習するが、子ども達は、練習で学習した既習内容に立ち返り、主となる教材の段落構成を考えたり、筆者の問いや結論に対する自分の考えをまとめたりすることができる。
- ・ 学習内容の習熟を図れるよう、各学年に複数の領域を扱う複合単元を配置している。例えば、1年生の「どんなおはなしができるかな」では、挿絵の動物になって、どんなことをしたいかを友達と話し合う。その内容を友達に教えるためのお話を書いて伝えるという学習を行う。複合単元を扱うことで、「話すこと・聞くこと」に関する指導内容と「書くこと」に関する指導内容を総合的に扱うことができ、学習効果を高めることができる。

○書写

2番「東書」について

- ・ 学び方を身に付けられるよう、巻頭に学年共通して「書写の学び方」を設定している。硬筆の学習をする低学年でも、毛筆の学習も加わる3年生以降も、「書写の学び方」を示し、課題解決型学習に取り組ませている。整った文字を書くにはどうしたらよいか、自分の文字について課題を「見つけ」、実際に書いて「確かめ」た上で、他の文字にも「生かせる」か挑戦する。そしてまた、自分の課題を達成できたかなど「振り返る」というステップを踏ませることで、子どもたちが納得しながら学習できるよう配慮されている。
- ・ 身に付けた学習内容を日常に生かせるよう、全学年に「生活に広げよう」や「学びを生かそう」を設定している。例えば、2年生の11月中旬には生活科とのつながりを意識した「かんさつカード

を書こう」、同じく2年生2月上旬には国語科の授業で学んだ「かさこじぞう」の一節を視写する教材が設定されるなど、書写の学習と日常や他教科とのつながりを実感できるよう教材が位置付けられている。

17番「教出」について

- ・学んだことに意識を向けられるよう、単元の終わりに振り返りの観点を具体的に示している。この観点に従って自分の文字を確認したり、本時の学習内容を振り返ったりすることで、文字を整えて書く力を着実に身に付けていくことができる。

38番「光村」について

- ・学びを確かなものにできるよう、2年生以上の教材全てに「たいせつ」を設定し、学習内容を端的に示している。2年生以上の教材全てに、学習のポイントが図解とともに端的に示されており、つまりきへのアドバイスとして、また、ねらい達成への足がかりとして活用することで、子どもたち一人一人の書く力を着実に身に付けることができるよう配慮されている。
- ・6年間の学びを統合できるよう、6年生では『書写ブック』を設定している。この書写ブックには、例えば、1年生で学んだ「横書きの書き方」、5年生で学んだ「新聞の書き方の工夫」など、国語や他教科、日常生活に関わる教材や、各学年で学んできた書写学習のポイントがまとめられており、書写を含めた国語科の学習のねらいである、様々な場面で生きて働く言葉の力を育成することができる。
- ・学習内容を把握しやすいよう、1つの目標につき1つの活動を当て、情報が見開き1ページに簡潔にまとめられている。基本的に、見開き1ページで学習が完結するよう紙面が構成されており、右ページ上段には問題解決につながる例示、下段にねらいや学習の進め方、そして「たいせつ」、左ページには手本を大きく配置している。紙面に盛り込む情報を絞ることで、何を学習するのか分かりやすく示されている他、児童が直接書き込める項目が豊富に盛り込まれ、多くの練習の機会があることも特徴となっている。

【質疑応答】

Q1 書写ブックは別冊か。

A1 真ん中に綴じこんでいる形になっている。

○社会

2番「東書」について

- ・進んで問題解決に取り組めるよう、巻頭に学習段階を色分けして、学習の進め方を記載し、視覚的に支援している。学習指導要領では、学び方の充実、問題解決的な学習の充実を図っており、社会に参画できる人材の育成を目指している。各学年の各内容を、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という、社会科の学習過程である、問題解決的な過程で学習が進められるよう構成している。また、各学年の巻頭に「学習の進め方」を記載し、学習過程を色分けすることで視覚的に支援している。
- ・思考力・表現力を高められるよう、単元末に「まとめる」コーナーを設け、多様な言語活動を数多く取り上げている。例えば、5学年において、沖縄の暮らしの特色をまとめて、キャッチコピーを考える活動や6学年において、武士の世の中への移り変わりについて整理し、元寇で活躍し、恩賞をもらえなかった竹崎季長のセリフを考え、発表する活動などを設定している。文章でまとめる、発表する、話し合う等の言語活動や、各教科・領域で学んだ知識・技能を使って表現する学習活動などを掲載している。
- ・社会参画意識を高められるよう、防災・安全、主権者教育、SDGsなどの今日的な課題を取り上げている。例えば、3学年において、市の風水害への取組を学習した後、家の状況を確認したり、避難経路を決めたりするなど、災害が起きた時に必要な備えや行動がとれるかを考える防災行動計画を作成する活動を設定している。防災・安全など今日的な課題を自分事として取り上げ、具体的にどのような行動をするのか選択判断、自己決定させる学習活動を多く掲載している。

17番「教出」について

- ・本時の学習の見通しが持てるよう、学習問題では「この時間の問い」、振り返りでは「次につなげよう」を題材ごとに示している。社会科の学習では、社会的な事象から課題を見出し、協働的に追究し、結果をまとめたり、振り返って新しい問いを見出したりする問題解決的な学習を行うことが大切であ

り、本教科書では、「この時間の問い」で学習問題を作り、「次につなげよう」で振り返りができるよう、見通しを持って学習ができる工夫がされている。

116番「日文」について

- ・ 学習内容を深めることができるよう、単元の終末に、話合いの場面を例示している。これからの社会科には、問題を解決していくために対話を通して、協働的に課題を解決する学習活動の一層の充実が求められている。本教科書では、問題を解決していくために話合いを通して課題を解決する学習の例を具体的に示している。
- ・ 学び方を身に付けられるよう、「学び方・調べ方」のコーナーを設け、読み取り方や表現の仕方を掲載している。社会科の学習では、グラフを読み取ったり、図にまとめたりするなど、資料活用能力や表現力の基礎を身に付けることが大切である。本教科書では、課題を追究したり解決したりするための視点や方法を示した「学び方・調べ方のコーナー」を掲載している。

○地図

2番「東書」について

- ・ 児童が日本の歴史を学びながら、同じ時代の世界の様子や日本とのつながりが捉えられるよう、4ページにわたり、世界の歴史地図を大きく掲載している。小学校社会科の歴史学習においては、先人の業績や優れた文化遺産について理解し、地図帳や年表などの基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けることとしている。本教科書には、世界の国々と関わりが深い歴史上の主なできごとについての地図が掲載されている。元の日本への侵攻路やマルコ・ポーロの行路、13世紀後半から14世紀始めの元やモンゴル帝国の領土、大航海時代のザビエルの行路やスペイン領、ポルトガル領等が一目でわかるよう、イラストを掲載している。また、歴史年表に歴史上の出来事と関連した地名が書かれてあるページを示しており、歴史学習において、様々な視点に関連づけて調べられるようにしている。
- ・ 伝統文化や食文化への関心が高められるよう、日本の世界遺産、歴史的景観、食文化、各地の主な祭りについて写真やイラストで掲載している。地域の伝統と文化などについて、人々の生活との関連を踏まえて理解することや地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことができるよう、写真やイラストを掲載している。また、家庭科や食育への対応といった他教科、総合的な学習の時間との横断的な学習での活用につなげたり、自分の住んでいる地域の伝統文化を調べたりできるよう、各地の主な祭りや特色ある郷土料理について掲載している。

46番「帝国」について

- ・ 防災・減災に取り組む人々の努力を理解し、防災への意識を高め、実際に災害が発生した際の安全な行動を考えられるよう、災害を防ぐ工夫の模式図、防災マップの作り方を掲載していることです。地震や火山の噴火、台風や豪雨による自然災害が発生しやすい我が国において、自然災害の知識を確実に身に付けるとともに、自然災害への対策や防災への意識を高めることが、強く求められている。「日本の自然災害と防災」を見開きで2ページ分掲載し、自然災害への備えや災害を防ぐ工夫の模式図、防災への取り組み等を示して、自然災害の知識や安全への意識を高めるようにしている。また、「防災マップづくり」の手順を提示しており、実際に災害が発生した際、安全に避難するための方法を話し合ったり、考えたりする学習の視点を示すことで、完成した防災マップを活用して災害時の身の守り方を学ぶとともに、児童自らが身を守るために何ができるかを具体的に考えられるようにしている。
- ・ 今日の課題を把握し、自分事として解決策を考えられるよう、持続可能な社会の実現に向けたSDGsの特設ページを設けるとともに、随所にSDGsの関係資料を掲載している。児童が今日の課題を把握し、自分事として捉え、解決策を考えられるよう、SDGsの特設ページが設けられている。地図帳全体にわたって、SDGsを学ぶ題材として活用できるよう、随所にSDGsのロゴを設置し、どこにどんな課題があり、その解決の取り組みとしてどのようなことが行われているのか考えることができるよう掲載されている。
- ・ 各都道府県の農業や工業の特徴を理解できるよう、巻末に統計資料と主な農産物や工業製品の生産額、日本の農水産物・資源の輸入先を示したグラフを掲載している。学習指導要領では、我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状等を調べるとともに、統計資料等を活用して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けることが求められている。児童が自ら課題を見付け、調べ活動をし、その結果をまとめるという問題解決的な学習の作業に役立つ資料は、課題解決のための手立てとして重要であり、多様な情報を得ることができるよう、統計資料のほか、帯グラフで分かりやすく掲載されており、地

図帳を用いて調べたことを表現する力の育成に活用できるものとなっている。

○算数

2番「東書」について

- ・ 学び方が身に付けられるよう、学習を振り返って新たな視点で考えさせる「それなら次は？」のページを設定している。算数科の学習においては、未習の問題に対し、既に習ったことをもとに解決方法を見いだすことが大切である。そこで、例えば、既習である平行四辺形や三角形の面積をどのように求めたのかをまとめ、未習である、台形の面積の求め方を考える場面など、自分でこれまでの学習をまとめた上で、未習の問題場面でも同様のことが考えられないかを促すことで、振り返って考える学び方を習慣づけることができる。

4番「大日本」について

- ・ 見通しをもって学習を進められるよう、授業の流れや板書、会話例を掲載している。例えば、6年生の分数のわり算では、機械的に計算方法を覚えるのではなく、計算のきまりや図をたよりに複数の考えを説明する中で、根拠を明らかにしながら学習を深めていく。そこで、板書や児童の説明の様子、会話のやりとりの例を写真の形で掲載することで、どのような考えを取り上げるとよいか、次にどのように考えるとよいか、など、学習の過程を見通すことができる。

11番「学図」について

- ・ 学習意欲を高められるよう、9つの「見方・考え方」をキャラクター化している。学習指導要領では、「数学的な見方・考え方を働かせて」資質・能力を育成することが目標として示されている。「数学的な見方・考え方」は、「筋道を立てて考えること」、物事を「統合・まとめてみる」「発展的に考える」という考え方である。それらを「どうしてそうなるかを考える」「同じようにできないか考える」といった、分かりやすい言葉で9つに分類し、キャラクター化している。そして問題場面で登場させたり、単元末の振り返りでどのような「考え方」、キャラクターを見つけたかを振り返る場面に位置づけたりし、数学的な見方・考え方をより身近なものとして定着させていく工夫を行っている。

17番「教出」について

- ・ 表現力を高められるよう、ノート書き方について、特に1学年では複数にわたって見本を示している。入学当初の1年生は、ブロックなどの操作的な活動を通して数の数え方等を学習した後に、たし算のような計算を学んでいく。そのため、ノートに書くことが重要になってくる。そこで、本教科書のように、ノートの書き方について見本を示すことで、慣れさせる配慮を、複数ページにわたって行っている。ノートを整理して書くことで、具体的な操作と式、言葉を結びつけやすくなり、表現力を高めていくことができる。

61番「啓林館」について

- ・ 数学的な見方・考え方を身に付けられるよう、セリフの吹き出しで協働的な学びを例示している。算数の学習では、思考力を高めるためには、課題解決のための自分なりの見通しや考えをもった上で、複数の考えを比較検討し、よりよい考えを追究する場面が重要である。5年生の「小数のかけ算」の学習では、「整数の計算をもとにして考える」という見通し、気付きを持たせようとして、数字を分ける考え方など3通りの考え方を示している。そしてよいところ、似ているところを比較・検討し、よりよい考えにまとめている。このように、複数の考え方を、式、言葉だけではなく、吹き出しを活用しながら、どのような考え方で求めたのかを示すことで、思考場面ともいえる協働的な学びを実現したつくりとなっている。
- ・ 学習内容に親しめるよう、単元の導入で日常生活に関わる題材を取り上げている。算数の学習では、日常生活にある疑問から、算数の問題として取り上げること、また、学習した内容、解決に至った考え方をさらに日常生活に生かしていくことが重要な学びといえる。例えば、宅急便の一場面を例とし、立体の大きさを比較するにはどうすればよいかという疑問や、図形の拡大・縮小で青森市のアスパムを取り上げ、興味・関心を高める上で効果的なものとなっている。
- ・ 学習状況に応じて個別に学習に取り組めるよう、各単元に解説動画や問題演習用のQRコンテンツを用意している。本教科書は、単元の主要な問題では、音声による解説付きの動画を複数掲載し、分からない児童にとってはヒントに、早く進んでいる児童にとっては確認のため、といった、個に応じて必要な場面で活用できる、個別最適な学びを実現するための有効な手段となっている。また、欠席した際や予習等、自学にも役立つことができるようになっている。

116番「日文」について

- ・ 思考力を高められるよう、課題を協働して解決するための「自分で みんなで」のページを設定している。本教科書では、「考えよう」の場面では自分の考えをかく場面の設定を、「学び合おう」の場面では複数の考えを提示し、それぞれの考えを説明する場面の設定をしている。複数の考えについて、どのように考えたかを説明し合う場面をイラストで表すことで、授業の過程がわかりやすく提示できる工夫を行っている。
- ・ 習熟に応じて取り組めるよう、巻末の補充問題は3段階の内容で構成していて、豊富な問題数を掲載している。児童、個人個人の学力を上げていくためには、その児童の学習状況、習熟の状況に合った課題に取り組む必要がある。本教科書では、例えば、立体の体積を求める問題において、チェック問題では、基本的な体積を求める問題、チャレンジ問題では、 200 cm^3 になる直方体を複数見つける問題、そして、ジャンプ問題では展開図から組み立てたときにできる容積を考える問題といったように、習熟別の補充問題を複数用意することで、自分に合った学習を進めていくことができる。

○理科

2番「東書」について

- ・ 課題解決に必要な考え方に気付かせるよう、キャラクターを用いてヒントを示している。理科では、課題解決の過程で理科の見方・考え方を働かせることが大切であり、4年生では、予想の場面に「のばそう！理科の力」を設け、思考させるためにキャラクターを用いてヒントを示している。1年間を通して「関係付ける」という考え方を身に付けられるよう、各単元や題材において繰り返しヒントを掲載している。

4番「大日本」について

- ・ 様々なアプローチから課題解決ができるよう、別の実験方法と結果を掲載している。理科では、予想し、観察や実験をもとに、考察してまとめをするという学習の流れが一般的であるが、本教科書では、1つの方法だけでなく、別の実験方法やその実験結果を紹介している。このことにより、学習内容を多面的・多角的に捉えることができ、より理解を深めることができる構成となっている。

11番「学図」について

- ・ 学習内容をさらに深められるよう、日常生活の事象について理科の用語を使って説明する場面を設けている。本教科書では、冷たい飲み物の容器に水滴ができる例をもとに、空気中の水蒸気存在を学習したあと、「活用 学びを生かそう」で、寒い日に窓ガラスがくもる現象を提示し、同じ現象を生活経験から見つけ、学習した用語「水蒸気」を使って説明させる場面を設けている。このことは、言語活動の充実になる他、思考力・判断力・表現力の育成にもつながる活動になっている。
- ・ プログラミング的思考を段階的に育成できるよう、3年生の段階からフロー図を掲載している。小学校におけるプログラミング教育が必修化され、理科においても取り組むことになっています。プログラミングを体験する初期の段階で、その考え方の基礎となる「調べたことを整理してまとめる活動」として取り上げており、3年生ではフロー図を掲載し、段階的にプログラミング的思考を身に付けられるようになっている。また、学年が上がるにつれてフローチャートの形式に変化させ、論理的に思考することができるよう構成されている。
- ・ 学んだ考え方を次の単元に生かせるよう、5年生では「ふりこの運動」から開始し、系統性に配慮している。5年生の理科で大切なのは「条件をそろえる」という考え方である。変える条件とそろえる条件について気付かせ、実験して検証しやすい「ふりこの運動」を最初に学習することで、次の「種子の発芽と成長」において、学んだばかりの考え方を活用して学習を進められるよう、系統性に配慮している。また、4月には種子の発芽が難しい本地区の気候に適した単元配列にもなっている。
- ・ 興味・関心が高められるよう、青森市の地層や本県の自然写真や人物を多く掲載している。身近な素材を扱うことで興味・関心が高められるよう、青森県の自然や関わりのある写真等を計16箇所取り上げている。また、6年生では、青森県出身である川口淳一郎を特集した自由研究のコーナーがあり、研究推進のために様々な困難に立ち向かった本人からのアドバイスがあることで、児童が夢や志を持ったり前向きに挑戦したりする態度を養うことができる教材となっている。

17番「教出」について

- ・ 学年ごとの学びが確認できるよう、巻頭には前学年のまとめ、巻末には当該学年のまとめを掲載している。各学年の巻頭では、前の学年での学習内容のまとめや身に付けた理科の見方・考え方を示

すことでいつでも振り返ることができ、スムーズに学習に取り組める構成になっている。また、巻末には当該学年のまとめ等を同じ構成で掲載しており、このページを次の学年の巻頭にも掲載することで、基礎的・基本的な知識・技能や理科の見方・考え方の確実な定着を促している。

- ・ 安全に実験を進められるよう、操作場面や裏表紙に注意・危険マークの2種で記し、事故防止に配慮している。理科では、観察や実験等、直接体験して確かめることが大切であるが、その際には、様々な器具の操作や薬品の取扱いなど多くのことに注意を払う必要がある。本教科書では、気を付けなければいけない操作手順に危険マークや注意マークを付して、安全面を意識させている。また、裏表紙には、学年毎に注意すべき点を「理科の安全の手引き」としてまとめ、確実な実験操作ができるよう配慮している。

26番「信教」について

- ・ 見本本がない範囲で研究調査している。

61番「啓林館」について

- ・ 学習内容を他教科と関連付けられるよう、巻末に割合や百分率、反比例など算数科の内容を取り上げている。6年生の、てこの性質について学習する際には、比例・反比例について考える場面があり、算数科で学習した技能が必要となる。また、「空気の成分」では割合や百分率、帯グラフの考え方が必要になる。理科の学習内容の理解を深められるよう、巻末に関連する内容を「算数のまど」としてまとめて取り上げ、算数科で学んだ技能をいつでも確認することができる構成となっている。

○生活

2番「東書」について

- ・ 学習したことを深められるよう、「まなびをふかめる」コーナーで、対話をしながら気付きの深まるプロセスの具体例を示している。生活科においてめざす、「主体的・対話的で深い学び」の姿をイメージできるよう、具体的な活動場面を紹介している。例えば、キュウリを観察して気付いたことを、ミニトマトやピーマンも同じなのかと、関連付けたり捉え直したりしている。また、実際に観察して確かめた後、他の野菜はどうなっているかと友達と対話をしながらさらに考えを広げている。キュウリから始まった気付きが他の野菜へと発展し、気付きの質が徐々に高まっていく様子が参考になるよう、具体的に紹介している。
- ・ 意欲的に学習に取り組めるよう、扉のページに、見開きでダイナミックな活動写真を掲載している。児童の「やってみたい」という思いを引き出し、スムーズな導入が図れるよう、躍動感あふれるいきいきとした活動写真を、全ての単元の扉に見開きで掲載している。これまでの経験や既存の知識を学習内容と結び付け、児童の思いや願いが醸成されるよう、写真には児童の表情や関わる対象物を大きく映し出し、期待感を持ちながら、意欲的に学習を進められるよう工夫している。

4番「大日本」について

- ・ 想像力を働かせて学習を進められるよう、諸感覚を活用し、体全体を使った活動を促すイラストや写真を掲載している。いろいろなもの見方や感じ方ができるように、あえて色のないモノクロ写真を掲載し、色やにおい、音などを想像させるページが掲載されている。また、「ふゆだいすき」の単元では、霜柱や氷が張った地面の写真を掲載し、足で踏み音を楽しんでいるイラストも紹介され、様々な感覚を使った体験ができるよう工夫している。

11番「学図」について

- ・ 自ら考えて活動できるよう、各単元で、自分や自身の生活について自己決定する場面をイラストや写真で紹介している。幼児教育と生活科1年生における活動の違いは、例えば栽培活動においては「自分の鉢で責任を持って育てる」ということである。種の数はどれくらいがいいか、どんな場所ならよく育つのか、自分が世話しやすい場所はどこなのかなど、友達と情報交換を行い、最終的には全て自分で決めていく。本教科書は、一つ一つの活動へ必然性をもたせて児童の思いや願いを十分に引き出し、自己決定する場面を大切にしている。

17番「教出」について

- ・ 意欲的に学習に取り組めるよう、単元の扉に、「わくわくスイッチ」のページを設け、期待感を持って学習を進められるようにしている。やらされている体験活動に陥ってしまわないよう、特に生活科では動機付けを大切にしている。本教科書では単元導入の扉に掲載されている「わくわくスイ

ッチ」のチャートを使って、単元の導入を始められるようにしている。この「わくわくスイッチ」では、児童の多様な思いや願いが言葉になって細分化され、当てはまるコースを選択しながら、学習に向かう自分の姿をイメージできるよう工夫している。「わくわくスイッチ」というタイトルも、児童にとっては、期待感を持って学習をスタートできるネーミングとなっている。

- ・ 自信を持って学校生活を始められるよう、スタートカリキュラムのページで幼児期の生活と学校生活とを対比し、つながりが見えるようにしている。「スタートカリキュラム」のページにおいては、「幼稚園教育指導要領」に掲載されている、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目をそれぞれ下段にイラストで示すとともに、それを生かして小学校で学習している姿を上段に掲載し、対比できるようにしている。幼児期に体験してきたことが小学校でも生かされることを分かりやすく掲載しており、つながりが見えることで自信を持って学びを進められるよう工夫している。
- ・ 次の学習につなげられるよう、単元の最後に「ぐんぐんはしご」を示し、キャラクターとともに、自分の成長を評価し自覚できるようにしている。単元の終わりに、キャラクターの言葉や位置をヒントにして、はしごを使って自己評価をする「ぐんぐんはしご」が掲載されている。キャラクターを学びの友として登場させ、はしごの下に掲載された単元のめあてに沿って自己評価を目盛りに表し、自分の成長が一目で分かるよう工夫している。また、はしごの上部を突き抜けさせて、児童の意欲を高く維持したまま、次の単元に進めるようにもしている。単元ごとに学んだことを視覚的にわかりやすく自己評価を繰り返すことで、意欲的に次の学習に進めることができ、自己肯定感の高まりが期待できる。

26番「信教」について

- ・ 見本本がない範囲で研究調査している。

38番「光村」について

- ・ 学習したことを深められるよう、巻中、巻末に、植物や生き物の図鑑を取り外しが可能な別冊や分冊で掲載している。生活科の活動をする上での約束事や学習教材のバリエーションの紹介、季節事の動植物を集めた資料等を巻中、巻末に別冊や分冊にして、持ち運びしやすく、自在に活用できるようにしている。汚れにくい加工を施しているため、季節単元や飼育単元などの野外活動や校外学習等にも使用でき、応用範囲を広げて活用できるように工夫している。

61番「啓林館」について

- ・ 見通しを持って学習を進められるよう、単元全体を「思いや願いを持つ」「活動や体験をする」「感じる・考える」「伝え合う・振り返る」の流れを3段階構成にしている。生活科の学習指導要領に学習過程の基本として記載されている、「思いや願いを持つ」こと、「活動や体験をする」から「感じる・考える」こと、「伝え合う・振り返る」ことの流れを、教科書全体を通して3段階構成にしている。それぞれを児童にも捉えやすくするため、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」というネーミングにして学びの深まりを表現し、見開き左の上部に段階毎に同色で見出しを付しており、見通しを持って学習を進められるようにしている。

【質疑応答】

Q1 本地区の児童にとって、どのような工夫が有効か。

A1 一つに、明るく生き生きとした写真やイラストが本地区の児童の感性を揺さぶったり、興味・関心を高めるために有効である。二つに、本地区の低学年の児童にとっては、実際に見て触って心が揺さぶられる場面や、教科書の紙面ですぐに比較できるものが有効である。三つに、本地区の低学年児童にとっては、幼保小連携の実態から、学習のスタート段階での文字の量は控えることが有効である。四つに、本地区の児童の実態から、キャラクターなど登場人物などはシンプルなものが有効である。

○音楽（一般）

17番「教出」について

- ・ 思考・判断しながら表現力を高めることができるよう、見開き右上に、教材に関連する音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として示している。例えば、1年生では『ジェンカのリズムであそぼう』というねらいのもと、拍に合わせてジェンカのリズムを手で打ったり、しろくまのジェンカの曲に合わせてジェンカのリズムを繰り返し打ったりする体験的な活動を通して学ぶことができるよう、「音楽のもと」を「リズム」「はく」「はんぷく」と示している。また、巻末には、「音楽のもと ま

とめ」のページを掲載し、学習の振り返りを通して、基礎的・基本的な事項が身に付けられるよう、工夫している。

- ・ 学習したことを生かしながら、音楽表現の楽しさを感じられるよう、発達の段階に応じて難易度を変えた共通の楽曲を全学年で取り上げている。1年生から6年生の教科書で「さんぼ」を取り上げ、全校で演奏できるように工夫している。1年生は歌唱、2年生は歌唱と鍵盤ハーモニカ、3年生ではリコーダーのパートが加わり、さらに4年生や5年生では歌やリコーダー、鍵盤ハーモニカのパートが2つに分かれ、6年生では打楽器のリズムが加わるなど、発達の段階に応じて難易度を変えた楽譜を掲載している。

27番「教芸」について

- ・ 意欲的に郷土の音楽を学べるよう、ねぶた囃子で使用される楽器などについて取り上げている。3年生では、郷土の音楽について学ぶことをとおして、日本の楽器の音や音楽に親しむことができるよう、ねぶた囃子について、使用する楽器のイラストを掲載して取り上げている。また、弘前ねぶた囃子や津軽じょんから節など写真で紹介しており、郷土の音楽に親しみを感じながら学習できるよう、青森県の郷土の音楽が掲載されている。
- ・ 音の高低やリズム、楽器を演奏する際の息の使い方などが視覚的に理解できるよう、図形楽譜や絵図を使って表している。例えば、1年生ではミッキーマウスマーチで聞こえてくるメロディーの音の高低やリズムなどについて図形楽譜で表しており、2年生では、鍵盤ハーモニカでいろいろな音の出し方を試行錯誤する際の息の吹き込み方について視覚的に理解できるよう、絵図を用いて示している。このことによって、音を聴き取る力や表現する力を育成し、音楽の楽しさや美しさを感じ取ることができるよう工夫している。
- ・ 自分の言葉で伝えたり音楽表現したりできるよう、随所に「見つける」「考える」「歌う」などのマーク使って、具体的な学習活動を示して児童が教材のどんなところに注目をして話し合いを進めたら良いのか、また、どんなところに気を付けて演奏したら良いのかなどについて、具体的な学習活動が示されており、学習を通して自分の言葉で伝えたり、表現したりできるように工夫している。

○図画工作

9番「開隆堂」について

- ・ 1年間の学習の見通しが持てるよう、巻頭に全ての題材名を、児童が活動している写真とともに掲載している。各学年の、巻頭の見開きで、1年間の学習内容が、視覚的に捉えられるとともに、作品と児童が生き生きと活動している様子を写真で掲載することで、関心と意欲が高められるよう、工夫している。
- ・ 学習のめあてを確認できるよう、各題材の重視する資質・能力を赤字で示すとともに下線を付し、「ふりかえり」と併せて発達の段階に即した言葉で簡潔に示している。中心となるめあてを強調することで、この題材では何を学習するのかがはっきりと示されている。また「ふりかえり」では、学習のめあてを受けて、子どもたちが確実にふり返ることができるように簡潔に書かれている。

116番「日文」について

- ・ 表現と鑑賞の題材を関連付けて学習できるよう、全ての表現の題材に鑑賞を位置付けるとともに、各題材に表現と鑑賞のヒントを示している。学習指導要領では、表現と鑑賞の指導については相互の関連を図ることとあり、表現と鑑賞を関連づけて学習することで、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う、児童の資質能力の育成を目指している。目次には、造形遊びをする活動、絵に表す活動、立体に表す活動、工作に表す活動と全ての表現の題材に、鑑賞する活動のマークが記されている。また、教科書の見出しには、絵に表す活動と、鑑賞する活動を関連づけて学習することが明確に示されている。
- ・ 思考力・判断力・表現力を高められるよう、多様な作品例を掲載するとともに、発想のヒントを示している。例えば、中学年の絵の題材では、材料や用具、技法の多様な作品例が掲載されている。また、「発想のヒント」としてマークを付し、発想や構想の能力を高められるよう、発想の手立てとして示されている。これらのことによって、児童の発想の能力が高められるとともに、児童の発達段階に即し、技法や表現方法を選択できるよう配慮している。
- ・ 版画表現に親しめるよう、発達の段階に即し、系統性に配慮した数多くの作品例を掲載したり、本県出身の棟方志功を取り上げたりしている。版画については、全学年を通して、充実した内容になっており、5・6年生の版画題材のページでは、児童の実態に応じてスチロール版画や木版画、彫り進み版画、多色刷りなど、様々な表現方法を選択できるよう、多様な作例が掲載されて

おり、充実した内容となっている。また、刷り紙の裏から、薄い絵の具で色を着ける「裏彩色」という技法で、本県出身の板画家、棟方志功が、よく用いた表現技法が掲載されている。さらに、「教科書美術館ミニ」では、棟方志功を取り上げており、本県の児童にとっては、郷土の偉人として、生き方やその偉業について学ぶ機会とするとともに、造形的な見方・考え方を働かせ、版画表現に関わる資質・能力の育成を目指すことができる内容になっている。

○保健

2番「東書」について

- ・ 学習した内容を深められるよう、QRコンテンツに動画や補助資料を数多く掲載している。学習した内容を深められるようQRコードで動画を掲載している。例えば、発表した人の心拍数の変化の様子を動画で確認したり、窓を閉めきった際の空気の流れを動画で示したりすることで、実際に日常生活で起こっていることに目を向けさせている。
- ・ 学習したことを深められるよう、各項の最後に、「資料」コーナーを掲載している。本教科書では、例えば、「犯罪被害の防止」の発展資料として「安全マップを作ろう」が掲載されており、安全マップを作る作業を通して、危険の予測やけがの防止に関する課題を解決するための方法を考え、表現する場としている。

4番「大日本」について

- ・ 学習したことを実生活に生かせるよう、家や地域で取り組みたい活動を明記し、取り上げている。児童が学習したことを実生活に生かせるよう「いえで」や「ちいきで」で自分ができる目標や日常生活へどのように生かすか記入する欄を設けている。「いえで」や「ちいき」のアイコンが大きく示され、何を考えるのか明確となり、スムーズに活動に取り掛かることができる。

50番「大修館」について

- ・ 学習内容に興味・関心を持てるよう、各章の初めのページに、著名人や章に関連する写真を掲載している。学習内容に興味・関心を持てるよう、スポーツ選手や著名人の写真を載せるとともに、授業につながるようなインタビューも掲載している。例えば、スケート選手の食事や休養、睡眠の重要性が話されたインタビューを掲載したり、国境なき医師団の方からの日本人の死亡の原因として、生活習慣病が挙げられることを話されたインタビューを掲載したりしており、様々な視点で健康を捉えることで、その後の学習に関心を持って進めていくことができる。

207番「文教社」について

- ・ 学んだことを生活に生かしていけるよう、生活の改善点を記載したり宣言したりする学習活動を取り入れている。学習したこと、理解したことを踏まえ、これからの生活にどのように生かしていくのか各章末に、「わたしのスッキリ宣言」など宣言できる項目を設けている。児童が学習したことを踏まえ、身近な生活の中で実践できるようにするとともに、仲間に応援メッセージを送る等、伝え合ったりする過程を通して、学習をさらに深めていけるよう工夫している。

208番「光文」について

- ・ 運動と健康との関連について具体的な考えが持てるよう、スポーツ選手のインタビューや運動の重要性、各種運動や運動領域の学習内容について、掲載している。運動と健康との関連について具体的な考えがもてるよう資料を多数掲載している。例えば、どれくらい運動すればよいのか考える資料やさまざまな運動の紹介がQRコードで掲載されている。肥満傾向児の出現率が高い本市においては、運動、食事、睡眠などに関連させて健康について捉える必要があり、今後、健康的な生活を実践していく上で有効な資料である。
- ・ 思考力・判断力・表現力の育成につながるよう、周りの人の意見を聞く活動や話し合う活動場面を設定している。例えば、仲間が健康のために気を付けていることをまとめる活動や2人の生活を比べ、どちらが虫歯になりやすいか話し合う活動を示している。本教科書は、話し合い等を行う活動場面が多く設定されており、自ら課題を見つけ解決していく力が育成される。
- ・ 学習への理解を深めたり、さまざまな視点で課題を解決したりできるよう、グラフや表などを多数掲載している。けがの防止で学習する発展的な資料では、死亡事故の原因や交通事故の原因、水の事故の場所等さまざまな視点で事故について考えるきっかけを与えている。

224番「学研」について

- ・ 思考力・判断力・表現力を高められるよう、「振り返ったり、読み取ったり、調べたり」、「話し合ったり、説明したり」するなどの学習を設定している。例えば、グラフから読み取れることを書き出してみる、これまでの自分の経験を振り返ってみる、資料を参考に話し合ってから整理してみるなど、状況や課題に応じたそれぞれの活動場面が示されている。このような活動を通して、学び方を身に付け、自ら課題を解決していく力を養うことができる。

○家庭

2番「東書」について

- ・ 主体的で対話的な深い学びの実現に向けて、全ての題材の冒頭に、話し合う活動を位置付けている。全ての題材の冒頭、導入場面で学習内容に関わるこれまでの生活経験を話し合う活動を取り入れることで、他者との意見共有、意見交換が行われ、自分の考えを広げることにつながるよう工夫されている。また、広がりを持ったことにより、その後の学習活動を通して、自分の考えを深められるようになっている。
- ・ 学習内容と伝統文化に関する内容を関連して考えられるよう、各題材で日本の伝統に関するトピックを掲載している。家庭科で養うことを目指す実践的な態度には、日本の生活文化を大切にしようとする態度も含まれていることから、家庭科の学習と関わりのある日本文化について、「日本の伝統マーク」を付して取り上げ、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」の特徴や、郷土料理の他にも、「もったいない」といった生活文化についてなどを、トピックとして紹介している。実生活を振り返らせながら、授業内で触れることで、日本の伝統についてより深い理解ができるようにしている。

9番「開隆堂」について

- ・ 地域の実態や生徒の発達段階に合わせて授業が展開できるよう、学習指導要領の内容ごとに題材が細かく区切られてまとめられており、組み替えがしやすい題材構成になっている。5学年では11題材、6学年では9題材で構成されており、関連のある学習内容が同色系で示されている。家庭科の学習では、題材間の関連を図って、効果的に学習を展開することが大切とされている。各学校の実態に応じて2つの題材を組み合わせたり、指導の順番を入れ替えたりすることで、学習内容のより深い理解につながるよう工夫されている。
- ・ 身近な生活の中から課題を見付けられるよう、児童の経験を踏まえた気付きや思考を促すイラストや写真を各題材の導入時に掲載し、考えたことや自己課題を記入する欄を設けている。どの教科よりも生活に密着している家庭科では、児童に実生活を振り返らせながら、自分なりの課題を持たせ学習に向かうことが重要である。題材の導入に児童の興味・関心を自分の言葉で記述できるスペースを設けることで、課題を自分事として捉えることにつながり、主体的な活動につながる工夫が全ての題材の導入に準備されている。
- ・ 地域の一員として、防災への関心が高められるよう、防災に関する学習内容には「防災に備える」のマークを記載し、巻末には特集ページを設け、自助・共助についても触れている。自己の生活について見つめ直し、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成を目指す、家庭科においては、今日的な課題である防災教育と関連の深い教科である。本教科書では「防災に備える」のマークが付されており、学習内容が防災に備える上で活用できることや防災に関わる職業人のインタビュー、防災を意識した深める課題等が設定されている。また、巻末では、特設ページを設け、家庭での備えだけでなく、地域や避難所での関わりなど自助・共助についても取り上げることで、防災について、自分の身の回りから家庭での防災、地域での防災と段階的に学習することが可能である。

○英語

2番「東書」について

- ・ 学習内容を整理して理解、表現できるよう、思考ツールを取り入れている。児童が自分の考えを広げて関連付けたり、自分の意見に理由を付けたりすることは、相手意識を持った表現につながる。本教科書では、思考ツールを活用して自分の考えをまとめ、伝えたいことを整理して表現活動に取り組めるようにしている。
- ・ 見通しを持って学習を進めることができるよう、それぞれのページが単元のゴールにスムーズに到達

できる構成になっている。単元のゴールが、「それぞれの地方の観光案内CMをグループで発表しよう」について、ステップ1で行きたい場所と訪れたい観光地についてのやり取りを記載し、ステップ2では観光案内カードの作成とCM内容についてまとめる記入欄、CM作成で活用できる表現例や単語例を記載し、Your GoalではCM発表の例を記載しているため、児童は見通しを持って学習に取り組むことができる。また、本教科書では、コミュニケーション能力育成のために、発表に対する反応の仕方を記載している。一方的に発表して終わりではなく、相手の反応を確かめながら活動することで、話すこと「やり取り」「発表」の力が身につく構成になっている。

9番「開隆堂」について

- 児童が意欲的に学習に取り組めるよう、各単元の活動場面に、ペア・ワークやグループ・ワークを設定している。本教科書では、題材によって学習形態を変え、児童が本当に伝えたい内容を話したり、友達の話す内容を聞いたりすることができる場面を設定している。例えば、お互いの好きなことや得意なこと、また、その理由をグループで伝え合う活動において、児童の意欲を喚起できるように、「自分のことをよく知ってもらうため」という、コミュニケーションの目的も明確に示している。

15番「三省堂」について

- 学習内容を深められるように、単元末に既習の言語材料を使用したりリスニング教材を掲載している。単元で新しく学んだ言語材料に繰り返し触れることは、外国語の音と文字の習得に効果的である。本教科書では、児童が慣れ親しんだことのある世界の物語を、絵や吹き出しの英語を頼りにしながら聞き、既習の言語材料に何度も触れられるよう、Story Timeを設定している。学習指導要領では、英語を「聞くこと」の目標として「身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする」「短い話の概要をとらえることができるようにする」ことが掲げられており、このStory Timeはその一助となる。

17番「教出」について

- 児童が表現活動に意欲的に取り組めるよう、様々な学習形態で取り組む「できることの本」という題材を設定している。自分ができることをワークシートに表現し、それをグループで伝え合った後、全員のワークシートを集めて、大きな1本の木にするという活動であり、児童の気づきを促し、思考や関わり合いを深める活動を通して、児童の「やってみよう」という思いから「できた」という達成感につながるようにし、意欲を喚起している。

38番「光村」について

- 文字を「読むこと」「書くこと」を段階的に身に付けることができるよう、5年生前半からAlphabet Timeを設定している。本教科書では、5年生の最初に、先生が読み上げた文字をイラストから探す活動、6年生の最後に、音声聞いて文字を書き足す活動が取り上げられており、スモールステップで文字や音に触れられるよう構成している。
- 思考力・判断力を高められるよう、日本語と外国語の違いについて学ぶ題材を設定している。本教科書では、児童の思考力・判断力を高めるために、日本語と外国語の表現の仕方や文構造の違いに何度も触れている。例えば、「I'm a cat.」という英語表現を、日本語では様々な言い回しにできることや、同じ意味を表す文でも、言語によって組み立て方に違いがあることに触れている。中学年で、日本語と外国語の、主に音声の違いに触れた児童が、高学年では語彙や文構造、言語の働きの違いにも触れ、中学校での英語科の学びにスムーズに移行できる構成になっている。

61番「啓林館」について

- コミュニケーション活動に意欲的に取り組めるよう、言語活動の場面で、目的や場面、状況を明確に設定している。学習指導要領では「他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」ことが外国語科の目標として掲げられている。本教科書では「友達が喜んでくれるバースデーカードを作って送みましょう」という言語活動が掲載されており、目的や場面を明確に設定しているので、児童は意欲的にコミュニケーション活動に取り組むことができる。また、見通しをもち、意欲的に取り組むことができる活動として、「身近な人やアニメキャラクターについて、相手にその魅力が伝わるように紹介する」という活動も設定している。
- 英語の音声に慣れ親しむよう、チャンツのコーナーに、強く読む文字を強調する印や、ヒントとなるイラストを付している。本教科書では、それぞれの単元に、語句や表現に慣れ親しむためのチャンツのコーナーを設定している。文字の音の読み方と、文字の名称の読み方の違いに難しさを感じることをないように留意しながら指導を続けることで、児童は、活字体で書かれた文字を適切に発音する力を身に付ける。本教科書では、この、語句・表現に慣れ親しむチャンツのコーナーに強く読む文字を

強調する印や、ヒントとなるイラストを付しており、児童がより理解を深めることができるように、視覚的にも音の強弱や読みのリズムを意識できる印を付している。

- ・ 基礎的・基本的な事項を身に付けられるよう、全ての活動の冒頭にQRコンテンツを付し、自分のペースで学び直しができるようにしている。本教科書は、児童が自分のペースで、また、家庭でも学習することができるよう、1つ1つの活動全てにQRコンテンツを用意している。各活動の音声、アルファベットや語彙をゲーム感覚で学習できるデジタルコンテンツ、世界の文化や生活などについて学べる映像を、5年生、6年生でそれぞれ160個、合わせて320個のコンテンツで提供している。習熟度に応じた活用や、学び直しのための視聴は、一人一台端末の操作に十分慣れ親しみ、日常的に利用している児童の学力向上につながるものと思われる。

○道徳

2番「東書」について

- ・ 意欲的に学習に取り組めるよう、1年生で「どうとくスタート」を設定し、教材で扱う内容項目に関連する絵本の紹介をしている。本教科書の1年生では、子どもが道徳科の学習の楽しさに出会う「どうとくスタート」を設定している。絵や写真を中心とした教材で児童が分かりやすく、主体的に自己を発揮しながら、道徳の学習を始めることができる。また、学習内容に関連する絵本の紹介することで、子どもたちが学習内容をさらに深めることができるよう工夫されている。
- ・ 道徳的価値について深く考えたり、自己の生き方について意欲的に考えたりできるよう、全学年で挿絵や写真と文章がバランスよく掲載されている。本教科書の5年生の「泣いた赤鬼」では、子供たちが青鬼の行動から友情についての考えを深めることができるよう、子供たちにとって身近な漫画家の挿絵を掲載することで、子供たちが意欲的に主人公の心情を考えることができる工夫がされている。また、6学年の「ある犬のお話」では挿絵を白黒にすることで話の内容の雰囲気を感じさせる工夫が見られる。また、大判の写真はとても鮮明でインパクトのあるものを掲載しており、児童の学ぶ意欲を高める工夫となっている。

17番「教出」について

- ・ 生き方についての考えを深められるよう、青森県出身者を含めた多くの偉人を取り上げている。6学年では内容項目「感謝」において本県出身者棟方志功を取り上げている。その他歴史的な偉人や著名人など多くの人物を教材で取り上げている。児童にとって身近な人物や他教科で学んだ人物を教材として学ぶことで、生き方についての考えをより深められるように工夫している。

38番「光村」について

- ・ 「生命の尊さ」を実感できるよう、各学年「感じよういのち」を掲載している。本教科書は、児童が生命の尊さを実感できるような活動を全学年で掲載しており、命の尊さを学習した後、さらに内容理解を深められるよう活動を設定している。4学年では赤ちゃんについての教材を学んだ後、お母さんのおなかに赤ちゃんがいることを疑似体験する活動を掲載している。この体験を通して、一つの命が誕生するまでの苦労など学習したことを深めることができる。

116番「日文」について

- ・ 主体的で多面的・多角的な学習に取り組めるよう、役割演技や議論などを取り入れた「ぐっと深める」を設定している。本教科書では、ねらいとする道徳的価値の理解をよりいっそう深めるための手立てとして、そのポイントとなる学習方法を写真付きで例示している。「問題解決的な学習」「体験的な学習」「学級全体で話し合う学習」を取り入れ、ねらいにより近づく深い学びを実現することができる。
- ・ 日常生活での道徳的実践力を育むよう、「道徳ノート」に保護者記入欄を設けている。本教科書に付属する「道徳ノート」には、保護者の考えが記入できる欄を設けている。本ノートは別冊になっており、児童の学びを家庭にもって帰ることができるだけでなく、子どもたちの身近にいる保護者ならではの視点を加えることで、子どもたちの学びを広げたり深めたりできるよう工夫している。
- ・ 夢や志を持てるよう、先人の生き方や考え方に関する資料と自分の生き方を照らし合わせて考える教材を配列している。本教科書において、著名人やスポーツ選手など身近な先人を教材とし、児童が自己肯定感を高められるよう、先人の夢や志を取り上げた教材を高学年から掲載している。高学年の多感な時期に、身近な著名人の教材から始まり、6学年最後の教材では「ゴゴ 94歳の小学生」において、94歳のゴゴという主人公がもつ夢について扱われており、人間の生き方について書かれた教材が効果的に配列されている。

208番「光文」について

- ・ 伝統文化を尊重し、国や郷土を愛する態度を養えるよう、児童にとって身近な地域にゆかりのある人物や自然等を取り上げた教材を掲載している。本県に関連する教材を2、3、5、6学年で掲載している。白神山地、蕪島、三浦雄一郎氏など、身近な教材を通して、道徳的価値について深く考えることができるよう工夫している。

224番「学研」について

- ・ より良く生きることについて、多面的・多角的に考えを深められるよう、内容項目が異なる2教材を連続して学ぶユニットが設定されている。本教科書は、連続した学びから考えを深めるために、「命ユニット」「多様性ユニット」「キャリアユニット」を設定し、児童が多面的・多角的に考えを深めることができるようにされている。キャリアユニットでは規則の尊重、と国際理解、国際親善という内容項目の違う教材を連続して学び、よりよく生きることにも多面的・多角的に考えを深めるように工夫している。

【主な協議内容・意見】

- 青森県に関わるものが多くの教科書で採用されていることが分かった。
- 青森の内容を取り上げているものは子供たちにとってよいと感じる。
- 教科書において二次元コードが充実してきていることが分かった。
- 子供たちが授業の中で思考を深めることができる教科書が好ましいと思う。
- 子供たちのことを考えて、また、先生方の軽減にもつながる教科書がよいと思う。